

認知症地域支援推進員だより

第2号

発行 令和3年2月

発行者 添田・西本



厳しい寒さの中にも冷気のすがすがしさを感じるようになりました。

国内外では新型コロナウイルス感染拡大に歯止めがかからず、日々不安を抱えながらの生活が続いています。私たち推進員も感染防止対策に努めながら新たな取り組みを模索している毎日です。

さて、推進員だより第2号では「コロナ禍での取り組みをご紹介します。」

まごしでカフェ



菱刈総合保健福祉センターまごし館では毎月第1水曜日に認知症カフェを開催しています。年初めのカフェでは、地域活動サポーターが中心となり牛の干支飾りと祝儀袋を手作りしました。

牛は古くから酪農や農業で人々を助

けてくれた大切な動物です。大変な農作業を最後まで手伝ってくれる働きぶりから五年は「耐える」「これから発展する前触れ」と言われています。コロナの終息を願い、今後も認知症カフェが地域の皆さんの集い・つながる場所として広がるように期待しています。

認知症は高齢者だけの病気じゃない

昨年12月に市内のキャラバン・メイ（認知症サポーター養成講座の企画・講師を担う）が集まり若年性認知症について研修を行いました。鹿児島県若年性認知症支援コーディネーターの堀之内広子氏を講師にお招きし、若年性認知症に関する相談・支援対応から見える現状について学びました。

若年性認知症とは「65歳未満」で発症する認知症のことです。病気としては高齢者の認知症と変わりませんが、若年性認知症の場合は多くが現役世代です。

認知機能が低下し、仕事や家事でミスが重なっても、認知症が原因だと、本人・周囲も気づかないことが多いです。職場に事情を理解してもらえず、ミスを繰り返すことで周囲から孤立し、うつ病を発症するなど、自ら抱え込んで退職に至るケースもあります。

早めの受診・診断が重要

早期であれば理解力や判断力が保たれているので病気であることを受け入れ、治療と仕事を両立し、今後の人生を設計する時間が持てます。

「まだ大丈夫」「家族でなんとかなる」と思っているうちに重症化してしまい、制度の利用やサービス導入のタイムミスを逃してしまふことがあります。日常の会話や行動がいつもと違つと感じたら早めの相談・受診をしましょう。



ソーシャル
ディスタンス



鹿児島県若年性認知症相談窓口
(コーディネーター対応)

☎専用電話：(099) 251-4010

認知症高齢者等の

見守りネットワーク協力事業所を募集中です！！
事業所からの情報をもとに地域包括支援センターのスタッフが訪問し、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるようサポートします。

- ★企業・団体の皆さまの登録をお待ちしています。
- ・登録に関するお問い合わせは、左記の地域包括支援センターまで。
- ・登録事業所へは、関連イベントの案内や推進員だよりをお届けします。



市内の銀行・郵便局・商店・薬局など 39 カ所の事業所が登録しています。

コロナ禍だからこそ「つながる」ことを大切に情報発信していきたいと思えます。
次号は8月発行予定です。
ご意見や感想をお待ちしております。



大口地域包括支援センター 23-2377
菱刈地域包括支援センター 26-1307